外国語学科中国語専攻 カリキュラム・マップ(2023年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(中国語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ②実践的中国語コミュニケーション能力を身につける(知識・技能) ③華人社会の多様な文化に関する基本的知識を身につける(知識・技能) ④自ら課題を見つけ、解決のための情報収集と分析をすることができる(知識・技能) ⑤多文化共生に取り組むことができる(態度) ⑥「他者への献身」の精神をもって行動することができる(行動)

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
中国語A(文法)	演習	1	2	本授業はＣＡＬＬ教室を使用し、主として日常会話に必要な中国語文法の基礎を学ぶ。まず、語句・構文の意味を理解し、常用される中国語の基本構文を口頭で組み立てるための基礎トレーニング、およびワードで入力するための基礎トレーニングを行う。	1. 中国語の基本構文を口頭で自由に組み立てられる基礎力を身につける。 2. 中国語情報処理の基礎力を身につける。	◎	◎	○			
中国語A(発音)	演習	1	2	中国語の基礎発音の特徴を認識し、それらの難点を効果的な練習を通して克服する。単語、文法、文型の習得を通じて，中国語の基礎を固める。	1. 中国語基礎音素の２１子音、３８母音及び声調を、正確に発音できる。 2. 基本的な語彙（２音節語）を正確に発音できる。 3. 教科書に用意している簡単な日常会話を正確に表現できる。 4. 少なくとも３００ほどの語彙を覚えられる。	◎	◎	○			
中国語A(リスニング)	演習	1	2	本授業はＣＡＬＬ教室を使用し、主として日常会話に必要なリスニングの基礎を学ぶ。 まず、中国語の音節体系を理解した上で、中国語の音節をピンインで聞き取るトレーニングを徹底的に行う。 次に２音節以上の語彙について、聞き取った音声を辞書で引き、パソコンで漢字に変換するトレーニングを行う。 音声から辞書を引くトレーニングの後、基本構文に未習単語をちりばめたセンテンスを聞き取り、辞書を参考に意味を理解するトレーニングを行う。 また、学内コンテスト前には、朗読課題文の練習を行う。	1. 中国語の音節をすべて聞き分けられるようにする。 2. 中国語の音声から辞書を引けるようにする。	◎	◎	○			
中国語B(文法)	演習	1	2	本授業は中国語Ａ（文法）の継続である。ＣＡＬＬ教室を使用し、日常会話に必要な中国語文法の基礎を学ぶ。まず、語句・構文の意味を理解し、常用される中国語の基本構文を口頭で組み立てるための基礎トレーニング、およびワードで入力するための基礎トレーニングを行う。	1. 中国語の基本構文を口頭で自由に組み立てられる基礎力を向上させる。 2. 中国語情報処理の基礎力を向上させる。	◎	◎	○			
中国語B(発音)	演習	1	2	中国語の基礎発音を身に付け、効果的な練習を通してそれらの難点を克服する。単語、文法、文型の習得を通じて、中国での日常生活に必要な中国語実践会話の基礎力を身に付ける。	1. 中国語基礎音素の２１子音、３８母音及び声調を、ほぼ問題なく発音できる。 2. に母音発音の特徴をしっかり理解でき、正確に発音できる。 3. 教科書に用意している簡単な日常会話を正確に表現できる。 4. 教科書に基づいて簡単な会話を理解でき、それなりに応対できる。 5. ６００～８００の語彙を覚えられる。	◎	◎	○			
中国語B(リスニング)	演習	1	2	本授業は中国語Ａ（リスニング）の継続である。 ＣＡＬＬ教室を使用し、主として中国語の日常会話に必要なリスニングの基礎を学ぶ。既習構文に未習単語をちりばめたセンテンスを聞き取り、理解するトレーニングを行う。 授業の合間に物語などを正確に聞き取り、声調だけでなく、イントネーションまで正確に真似るトレーニングも行う。 また、学内コンテスト前には、暗誦課題文の練習を行う。	1. 国語のセンテンスを音声から聞き取り、理解する基礎能力を身につける。 2. 中国語Ａ（文法）で学んだ基本構文を定着させる。	◎	◎	○			
中国語C(文法)	演習	2	2	本授業は中国語Ｂ（文法）の継続である。 中国語の中級レベルの語彙・表現について学び、中国語で書かれた物語の読解に取り組む。	1. 中国語の基本構文を口頭で自由に組み立てられる基礎力を確立する。 2. 中国語情報処理の基礎力を確立する。 3. 中国語の文章を読解する基礎力を身につける。	◎	◎				
中国語C(会話)	演習	2	2	中国語の基礎発音を身に付け、効果的な練習を通してそれらの難点を克服する。単語、文法、文型の習得を通じて、中国での日常生活に必要な中国語実践会話の基礎力を身に付ける。	1. 中国語の発音を正確にできる。 2. ８００以上の語彙及び文型を修得する。 3. 教科書に用意している簡単な日常会話を正確に表現できる。 4. 教科書に基づいて簡単な会話を理解でき、それなりに応対できる。	◎	◎	○			
中国語D(読解)	演習	2	2	中国語で書かれた文章を読解する基礎力を身につける。	言葉には、書き言葉（書面語）としゃべり言葉（口頭語）がある。新聞の文章を短いセンテンスで学び、両者の使い方を修得する。 授業は次の要領で進める。 1. 例文の説明。 2. 読む練習。 3. 用例の練習。 なお、確認テストを数回行う。		○	◎		○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（中国語）の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける（国際性） ②実践的中国語コミュニケーション能力を身につける（知識・技能） ③華人社会の多様な文化に関する基本的知識を身につける（知識・技能） ④自ら課題を見つけ、解決のための情報収集と分析をすることができる（知識・技能） ⑤多文化共生に取り組むことができる（態度） ⑥「他者への献身」の精神をもって行動することができる（行動）

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
中国語D（会話）	演習	2	2	中国語の基礎発音を身に付け、効果的な練習を通してそれらの難点を克服する。単語、文法、文型の習得を通じて、中国での日常生活に必要な中国語実践会話の基礎力を身に付ける。	1. 中国語の発音を正確にできる。 2. ８００以上の語彙及び文型を修得する。 3. 教科書に用意している簡単な日常会話を正確に表現できる。 4. 教科書に基づいて簡単な会話を理解でき、それなりに応対できる。	◎	◎	○			
中国語E（通訳）	演習	3	2	これまでに習得したコミュニケーション力を定着させ、さらに発展させるために、日常会話レベルの日本語を中国語に、中国語を日本語に置き換える練習をおこなう。最初はゆっくりした速度で練習し、最終的にはシャドウイングができるようにしたい。	中日・日中通訳の基礎力を身につける。	◎	◎	○			
中国語E（読解）	演習	3	2	毎回テキストに掲載された長文の読解を行うとともに、関連する文法事項を確認しながら、その定着を図る。さらに中国の時事問題や現代事情に対する関心を深めるために、教科書以外の教材も随時使用する予定である。 なお、確認テストを数回行う。	選りすぐりの新聞記事を集めたテキスト使って、文法事項を確認しながら中国語で書かれた文章の読み方を学び、中国語の読解力向上を図ることが目的である。		○	◎			
中国語F（通訳）	演習	3	2	これまでに習得したコミュニケーション力を定着させ、さらに発展させるために、日常会話レベルの日本語を中国語に、中国語を日本語に置き換える練習をおこなう。最初はゆっくりした速度で練習し、最終的にはシャドウイングができるようにしたい。	中日・日中通訳の基礎力を身につける。	◎	◎	○			
中国語F（読解）	演習	3	2	漢字を見て理解するのではなく、音声から中国語を理解し、日常的な文章を音声だけで理解できるような読解力を身に着けていく。	中国語で書かれた日常的な文章を聞いて理解できるような読解力の向上を目指す。漢字に頼らず音声からの中国語読解力の習得が主たる目標である。		○	◎			
伝道中国語1	演習	2	1	中国語で天理教の基本教理を学び、華人への布教を想定した実習を行う。	天理教の教理を中国語で伝えるための基礎的な語学力を養なう。		○	○		○	◎
伝道中国語2	演習	2	1	『天理教教祖伝逸話篇』で具体的な教えを学び、その教えを自分の言葉で伝える。	天理教の教理を中国語で伝えるための応用力のある中国語を習得する。		○	○		○	◎
広東語A	演習	2	1	中国語の有力な方言の一つである広東語の基礎を身につける。共通語のほかに方言を学ぶことで、中国人の話す言語に対する理解を広げることを目的とする。	広東語の発音の基礎、文型の基礎を身につける。		○	○		◎	
広東語B	演習	2	1	中国語の有力な方言の一つである広東語の基礎を身につける。共通語のほかに方言を学ぶことで、中国人の話す言語に対する理解を広げることを目的とする。	広東語の発音の基礎、文型の基礎を身につける。		○	○		◎	
台湾語A	演習	2	1	台湾語の会話能力の習得を目的とする。	基本的にはテキストの順番に従って授業を進めていく。受講生は日常生活で使われる常用文型や語彙を把握し、会話練習を通して台湾語の基礎会話力や応用能力を身につける。		○	○		◎	
台湾語B	演習	2	1	台湾語の会話能力の習得を目的とする。	基本的にはテキストの順番に従って授業を進めていく。受講生は日常生活で使われる常用文型や語彙を把握し、会話練習を通して台湾語の基礎会話力や応用能力を身につける。		○	○		◎	
ビジネス中国語	演習	3	1	日中貿易の現況と問題点、およびそれを取り巻く環境についてグローバルな視野で広く理解する。その上で、学んだ中国語をどのようにしてビジネスの現場に活かすか、実践的・実用的な講義を行う。	最初に、日中貿易の歩みと現況を学び、問題点を考える。その上で、実際のビジネスレター、メールを参考にして、実践ビジネス中国語における四つの技能、読む、書く、聴く、話すの基礎を習得することを目標とする。		◎		◎	◎	
ネイティブ中国語1	演習	3	1	中国語の文学作品や時事ニュースなどを通じて、更なる中国語の語学力を高めることにある。	文学作品や時事ニュースなどを通じて受講者たちの語彙量を増やす。同時に内容を理解した上に、ある程度中国語によるプレゼンテーションげできる。授業の中国語解説を一定の程度まで理解できる。	◎	◎	○			
ネイティブ中国語2	演習	3	1	中国語の文学作品や時事ニュースなどを通じて、更なる中国語の語学力を高めることにある。	文学作品や時事ニュースなどを通じて受講者たちの語彙量を増やす。同時に内容を理解した上に、ある程度中国語によるプレゼンテーションげできる。授業の中国語解説を一定の程度まで理解できる。	◎	◎	○			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（中国語）の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける（国際性） ②実践的中国語コミュニケーション能力を身につける（知識・技能） ③華人社会の多様な文化に関する基本的知識を身につける（知識・技能） ④自ら課題を見つけ、解決のための情報収集と分析をすることができる（知識・技能） ⑤多文化共生に取り組むことができる（態度） ⑥「他者への献身」の精神をもって行動することができる（行動）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
実践中国語A	演習	2	1	中国語を使った社会貢献をするための基礎知識と手法を養う。	1. 市民社会に関する理論が説明できるようになる。 2. 中国語を用いた諸活動を企画・実践できるようになる。	○	○			◎	◎
実践中国語B	演習	2	1	中国語を使った社会貢献ができるようになる。	1. 中国語を用いた諸活動を企画・実践できるようになる。 2. 社会貢献活動に必要な中国語を運用できるようになる。	○	○			◎	◎
スピーチ中国語A	演習	2	1	本授業はＣＡＬＬシステムを利用し、教室だけでなく、自宅でも音声トレーニングや録音を行う。まずイントネーションの原理を学び、ネイティブの音声を詳細に分析する。次にシャドウイングを中心にしたトレーニングを繰り返し、各自のイントネーションをネイティブレベルに近づける。 希望者は、完成前の暗誦やスピーチを授業中に発表し、教員又は受講者から意見を受けることができる。	中国語の暗誦やスピーチで喜怒哀楽などの様々な感情を表現するには、四声だけでなく、＜高低＞＜長短＞＜強弱＞を織り交ぜた文のイントネーションを習得する必要がある。本授業では、中国語のイントネーションの原理と実践を学び、中国語スピーチの基礎力を養成する。	◎	◎	○		○	○
スピーチ中国語B	演習	2	1	本授業では、受講者全員が実際に中国語のスピーチを作成し、各種コンテストに参加する。	本授業はＣＡＬＬシステムを利用し、教室だけでなく、自宅でも音声トレーニングや録音を行う。中国語スピーチは次のような手順で作成・練習する。 1. 具体的にどのコンテストに出場するか目標を定める。 2. 日本語原稿を作成して発表し、内容について全員で意見交換を行う。 3. 内容が確定したら中国語に翻訳し、ネイティブのチェックを受ける。 4. 完成原稿をネイティブに録音してもらい、授業でイントネーションを分析する。 5. 自宅に持ち帰ってムービーテレコで練習し、授業でダメ出しをする。 6. コンテストに出場する。 7. 授業でコンテストのビデオを見ながら再度駄目出しをする。 8. コンテストでできていなかった発音を練習した後録音し、提出する。	◎	◎	○	○	○	○
中国語学概論1	講義	2	2	中国語学の立場で古典よ読み解いていく。語彙と語法を中心に論じる。	中国語専攻生として知っておくべき中国語学の知識を身につける。			◎	○		
中国語学概論2	講義	2	2	中国語学の立場で古典よ読み解いていく。音律と修辞を中心に論じる。	中国語専攻生として知っておくべき中国語学の知識を身につける。			○	◎		
中国文学概論1	講義	2	2	現代の中国文学および台湾文学の発展と特色を概観し、さらに1980年代に誕生した台湾原住民文学について知る。	日本文学との違いを視野に入れながら、中国近現代文学の特色を学ぶこと、および中国白話文学と日本語文学を生みだした台湾文学の特色と戦後の挫折・封殺・発展について学ぶ。さらに、今日世界先住民族文学の中でも注目される台湾原住民族文学の誕生とその魅力について知る。			○		◎	○
中国文学概論2	講義	2	2	人間の心情の表れである文学作品を通して、中国人の感覚的な特質を理解する。	陶淵明、李白、杜甫の詩など、中国の伝統的な文学作品の内容を理解し、そこから死生観や、理想郷、異界や日常空間といった様々な視点で、中国を理解するための考察力を深める。さらに中国語により発音し，暗誦することによって、中国作品のリズムを体得する。					◎	○
中国史1	講義	2	2	「漢族の南下」という、中国史を貫く一つの現象を通じて、中国史の時間的な流れと空間的な広がりを理解する。	漢族の南下の具体的な過程に、開発・宗族・華僑など、移住という行為に密接に関わる中国史上の諸トピックスを交差させながら授業を進める。具体的なトピックスとしては、①江南デルタの開発と商業化、②福建・広東山間部と宗族、③珠江デルタと水上居民、④台湾、⑤華僑とチャイナタウン、などを扱う。					◎	○
中国史2	講義	2	2	伝統中国の歴史的経緯および現在との連続性を理解する。	中国の歴史を、現代中国の枠組みが作られた清代（1644－1911）に重点をおきながら概説する。授業の前半では古代から近世明代までの政治史の流れを概論し、後半では清朝社会の諸変動について、多民族国家・華僑社会の形成なども含めて、現代中国を意識しながら重点的に説明する。			◎		○	
中国文化史1	講義	2	2	中国の文化について、幾つかのフィルターを通して点検する。歴史的な諸事項やその特質の確認を通じて、受講生の中国文化についてのさらなる関心を高め、理解を深める。	1. 中国の美術や文字について、青銅器や甲骨文字を通してその特徴の理解を深める。 2. 都市の構造や建築を通じて社会文化との関係を理解する。 3. 墳墓文化を通じて古代中国人の死生観を理解する。 4. 中国の文字の歴史を理解する。 5. 諸々の文化現象を通じて中国の文化思想を考える。			◎	○	○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（中国語）の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける（国際性） ②実践的中国語コミュニケーション能力を身につける（知識・技能） ③華人社会の多様な文化に関する基本的知識を身につける（知識・技能） ④自ら課題を見つけ、解決のための情報収集と分析をすることができる（知識・技能） ⑤多文化共生に取り組むことができる（態度） ⑥「他者への献身」の精神をもって行動することができる（行動）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
中国文化史2	講義	2	2	中国文化に対する基礎的な知識を身につけたうえで、日本との差異に注目しながら、中国文化の特質を考察する力を向上させる。	1. 衣食住や年中行事など中国文化を理解する基礎となる事柄ついて知識を深める。 2. 風水・気・陰陽思想など中国文化の特質を考察する。 3. 古来日中交流によって、日本に流入し、定着し、日本化した中国文化について一定の知見をもつ。 以上の三点によって、受講者の中国への理解を促す。				◎	○	
台湾社会文化論1	講義	2	2	日本人は台湾のことをどのくらい知っているだろうか。台湾は、複数のエスニックグループ（族群）から構成され、多様な文化を持つ社会であり、日本とは歴史的に深い関係にある。本講義では台湾の歴史および社会文化を学ぶことで台湾理解を深め、さらに台湾に視点を置いて国際社会を観察する。	台湾社会を構成するエスニックグループは漢民族と先住民族に大別される。漢民族は16世紀以降、中国南部から続々と台湾に移民してきた。さらに1945年以降には国民政府とともに多数の漢民族が中国各地から台湾に渡ってきた。しかし台湾には、漢民族の渡来以前からこの地に暮らしてきた先住民族がいる。台湾政府は16の民族を先住民族として認定し、台湾原住民族と呼んでいる。さらに平埔族がいる。このほか、1990年代後半以降急増した外国籍労働者と外国籍配偶者も、現代の台湾社会を構成するエスニックな要素となっている。これらのさまざまなエスニックグループに焦点をあてて、台湾の多様な社会と多元文化を理解する。			○	○	◎	○
台湾社会文化論2	講義	2	2	日本人は台湾のことをどのくらい知っているだろうか。台湾は、複数のエスニックグループ（族群）から構成され、多様な文化を持つ社会であり、日本とは歴史的に深い関係にある。本講義では台湾の歴史および社会文化を学ぶことで台湾理解を深め、さらに台湾に視点を置いて国際社会を観察する。	台湾社会を構成するエスニックグループは漢民族と先住民族に大別される。漢民族は16世紀以降、中国南部から続々と台湾に移民してきた。さらに1945年以降には国民政府とともに多数の漢民族が中国各地から台湾に渡ってきた。しかし台湾には、漢民族の渡来以前からこの地に暮らしてきた先住民族がいる。台湾政府は16の民族を先住民族として認定し、台湾原住民族と呼んでいる。このほかに、1990年代後半以降急増した外国籍労働者と外国籍配偶者も、現代の台湾社会を構成するエスニックな要素となっている。これらのさまざまなエスニックグループに焦点をあてて、台湾の多様な社会と多元文化を理解する。					◎	○
近現代中国と国際政治1	講義	2	2	本講義では、まず、国際政治の基礎知識を学ぶ。つぎに、アヘン戦争を中国近代のはじまりとする見方、すなわち「西洋の衝撃」を中国近代のはじまりとする見方の持つ意味について検討する。その上で、中華民国の成立から五・四運動までの中国をめぐる国際関係について学ぶ。	中国における「近代」の意味および国際政治の基礎知識を学び、中国近現代史および中国をめぐる国際関係の見方を習得することを目的とする。			◎	○	○	○
近現代中国と国際政治2	講義	2	2	本講義では、まず、日中戦争前夜から改革開放までの中国をめぐる国際関係について概観する。つぎに、改革開放以降の中国政治をソフトパワーの視点から考察し、世界に広がる中国の影響力について学ぶ。最後に、中国、台湾、香港のNGOの事例から連帯する市民社会の意味について考えていく。	「近現代中国と国際政治1」で学んだ国際政治の基礎知識をもとに、中国近現代史および中国をめぐる国際関係の見方を習得することを目的とする。			○	◎	○	○
中国語科指導法1	講義	3	2	日本の高等学校における中国語教育の現状を理解し、中国語教育に必要な知識と指導法を学ぶ。	1. 基礎的な発音、語彙、文法を高校生にわかりやすく説明、指導することができる。 2. 英語教育、日本語教育での指導法を学び、それを中国語教育に応用することができる。 3. ルーブリック、テスト等を作成できる。	◎	◎	○			
中国語科指導法2	講義	3	2	これまで学んできた中国語及び指導法の理論をもとに、本講義では模擬授業を通して、実践的なスキルを身につける。	1. 短時間で指導案を作成できる。 2. 模擬授業を繰り返し行い、人前で授業ができる。 3. 模擬授業を繰り返し行い、自分の授業を客観的に評価し、課題を見つけることができる。			○	◎		
中国語演習1	演習	3	2	中国語の原典を講読しながら、多角的に中国の言語、文化、政治経済を理解する。	中国語の解読能力を高め、専門分野の知識を深める。			○	◎	○	
中国語演習2	演習	3	2	中国語の原典を講読して、多角的に中国の言語、文化、政治経済を理解しながら、各々に関心のあるテーマを見つけ、理解を深める。	中国語の解読能力をさらに高め、中国の言語、文化、政治経済における各自の関心点と問題意識が持たれる。			○	◎	○	
中国語演習3	演習	4	2	中国語演習１、２で考えた問題点を、それぞれ卒業論文・卒業課題研究という方向へ調査、内容の検証、さらに理解を深める。	各自の課題について一定程度の調査結果が集められ、問題点の所在が絞り出せる。			○	○	◎	
中国語演習4	演習	4	2	それぞれにもった中国の言語、文化、政治経済の課題を、調査、検証しながら、最終的に各自の卒業論文・卒業課題研究としてまとめる。	各自の課題について、一定程度の専門知識が持たれ、自ら卒業論文、または課題研究としてそれなりの成果をまとめ、完成する。			○	○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（中国語）の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける（国際性） ②実践的中国語コミュニケーション能力を身につける（知識・技能） ③華人社会の多様な文化に関する基本的知識を身につける（知識・技能） ④自ら課題を見つけ、解決のための情報収集と分析をすることができる（知識・技能） ⑤多文化共生に取り組むことができる（態度） ⑥「他者への献身」の精神をもって行動することができる（行動）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
中国語海外語学実習	実習	2･3･4	4	中国文化と中国語についての知識をさらに深めるため、現地に赴いて実習する。実習の重要な一環として現地の大学でも授業を受ける。現地滞在中のすべての時間を実習として、広く学習する。	1. 中国語のレベルを、現地授業の求められるレベルに達する。 2. 中国社会において独自に簡単なコミュニケーションができる。 3. 中国の社会、文化、歴史など理解が深められた。 4. 実習したことについて、自らレポートにまとめられた。			○	○	◎	○
卒業課題研究		4	2	明確な問題意識を持って、研究する課題について理解を深め、研究業績としてまとめる。	明確な問題意識を持って、研究課題について、資料を調査し、それなりの成果をまとめられた。			○	◎	○	○
卒業論文		4	4	明確な問題意識を持って、研究する課題について理解を深め、研究論文としてまとめる。	明確な問題意識を持って、研究課題について、資料を調査し、卒業論文としての成果をまとめられた。			○	◎	○	○